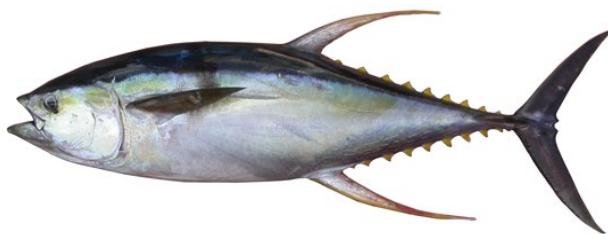


# キハダ 大西洋

Yellowfin tuna *Thunnus albacares*



## 管理・関係機関

大西洋まぐろ類保存国際委員会 (ICCAT)

## 生物学的特性

- 最大体長・体重：尾叉長 2.0 m・200 kg
- 寿命：7~10 歳（18 歳の可能性もある）
- 性成熟年齢：3 歳（50% 成熟年齢）
- 産卵期・産卵場：周年・表面水温 24°C 以上の海域
- 索餌期・索餌場：分布域に等しい
- 食性：魚類、甲殻類、頭足類
- 捕食者：マグロ・カジキ類、サメ類、海産哺乳類

## 利用・用途

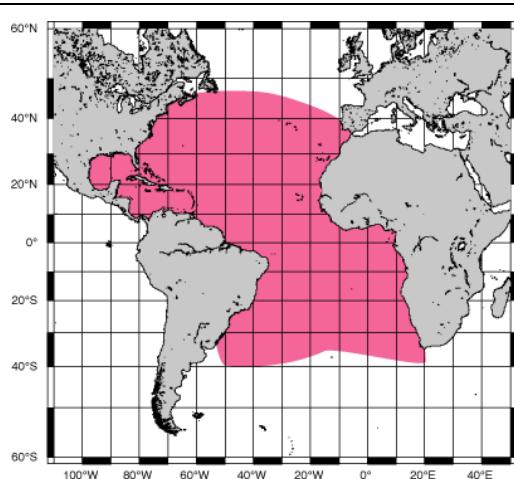
刺身、すし、缶詰等

## 漁業の特徴

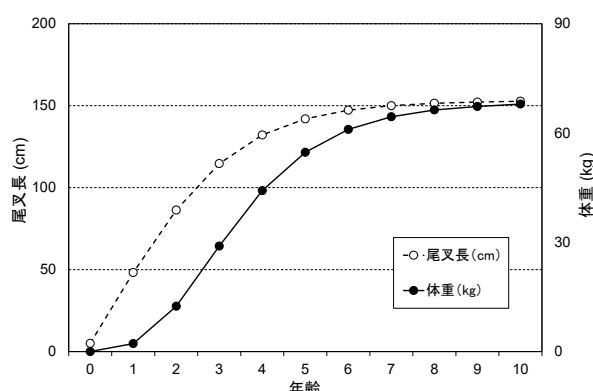
大西洋におけるキハダ漁業は 1950 年頃に始まり、1955 年頃から竿釣り及びはえ縄漁業が開始された。当初ははえ縄の漁獲が多くを占めたが、最近年はまき網が主となっている。主漁場は熱帯域であり、特に東部大西洋からの漁獲が多い。近年はまき網の人工浮き魚礁 (FAD) 操業の漁場が拡大し、南は西アフリカ沿岸の南緯 15 度付近、北はモーリタニア沖合の北緯 15 度付近まで拡がっている。はえ縄は大西洋のはば全域で操業が行われている。竿釣り漁業は東部、西部大西洋の沿岸部で行われている。日本は、主に熱帯域においてメバチを主対象としたはえ縄操業で本種を漁獲している。

## 漁獲の動向

本種の総漁獲量は、当初から 1970 年代までは概ね増加傾向にあり、1980 年以降は 10 万~20 万トンの間で変動し、最近 5 年間では全漁獲量のうちおよそ 69% がまき網、12% がはえ縄、5% が竿釣りにより漁獲されている。1990 年に漁獲量のピーク（19.4 万トン）が記録された後、減少傾向に転じ、2000 年代半ば以降横ばいもしくは増加し、2022 年には増加して 14.8 万トン（予備集計）となった。最近 5 か年の日本の漁獲量は 0.3 万~0.4 万トン前後で、大きな年変動はみられない。



大西洋におけるキハダの分布域



大西洋におけるキハダの成長

## 資源状態

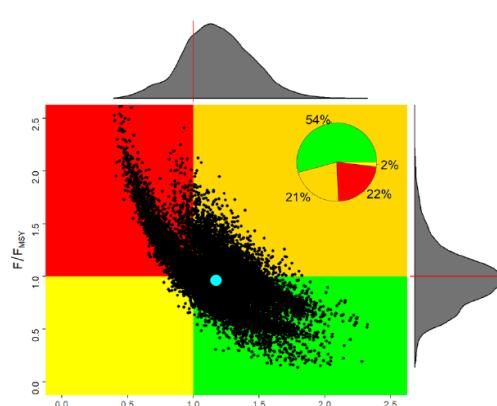
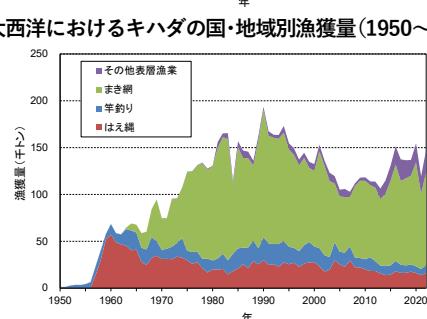
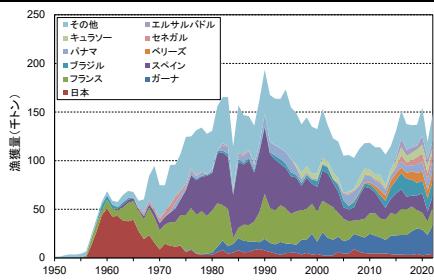
最新の資源評価は ICCAT により 2019 年に行われた。資源評価モデルは、2種類のプロダクションモデル (Surplus production model: MPB、Just Another Bayesian Biomass Assessment: JABBA) 及び統合モデル (Stock Synthesis: SS) が用いられた。最大持続生産量 (MSY) は 12.1 (90%信頼区間: 9.0~26.7) 万トンと推定され、2018 年の時点では、資源量は MSY レベルより大きく ( $B_{2018} / B_{MSY} = 1.17$  (0.75~1.62))、漁獲圧はほぼ MSY レベルにあり ( $F_{2018} / F_{MSY} = 0.96$  (0.56~1.50))、本資源は乱獲状態ではなく、本資源への漁獲圧は適正なレベルであるとされた。将来予測 (3 モデル統合) では、将来的な漁獲量を 13 万トン (現状の漁獲量) と仮定した場合、2033 年 (15 年後) に資源状態が神戸プロットのグリーンゾーンに位置する確率は 38%、11 万トン (総漁獲可能量 (TAC)) と仮定した場合、同確率は 86% と推定された。

## 管理方策

2019 年 11 月の ICCAT 年次会合で TAC を引き続き 11 万トンとすることが合意された。また、従来の FAD 操業の制限 (2019 年 1 月 1 日~2 月 28 日の 2 か月間、南緯 4 度、北緯 5 度、西経 20 度、アフリカ大陸で囲まれた海域で操業禁止) は強化され、2020 年には 1~2 月の 2 か月間、さらに 2021 年には 1~3 月の 3 か月間において、大西洋全体における FAD 操業の禁止が決定された。FAD 数は、1 隻当たり一度に 350 基 (2020 年) 及び 300 基 (2021 年) までとした。2021 年 11 月の ICCAT 年次会合において熱帯まぐろ保存管理措置が一部改定され、2022 年は、FAD 禁漁 (大西洋全体) は 1 月 1 日~3 月 13 日の 72 日間に決定された (それ以外は同じ措置を 2022 年も継続)。2022 年 11 月および 2023 年 11 月の ICCAT 年次会合において、管理措置の 1 年間単純延長が決定された。

## キハダ (大西洋) の資源の現況 (要約表)

世界の漁獲量 (最近 5 年間)	11.9 万~15.5 万トン 最近 (2022) 年: 14.8 万トン 平均: 13.9 万トン (2018~2022 年)
我が国の漁獲量 (最近 5 年間)	0.3 万~0.4 万トン 最近 (2022) 年: 0.4 万トン 平均: 0.4 万トン (2018~2022 年)
資源評価の方法	プロダクションモデル (MPB, JABBA)、統合モデル (SS)
資源の状態 (資源評価結果)	$B_{2018}$ : 72.9 万トン $B_{2018} / B_{MSY}$ : 1.17 (0.75~1.62) $F_{2018} / F_{MSY}$ : 0.96 (0.56~1.50) 2019 年の資源状態は、過剰漁獲ではなく、乱獲状態でもない
管理目標	MSY: 12.1 (9.0~26.7) 万トン
管理措置	TAC (11 万トン) 大西洋全体における FAD を利用したまき網操業の禁止 (2020 年は 1~2 月の 2 か月間、2021 年は 1~3 月の 3 か月間、2022~2024 年は 1 月 1 日~3 月 13 日 <sup>*</sup> の 72 日間) <sup>*</sup> 2024 年は 3 月 12 日まで
管理機関・関係機関	ICCAT
最新の資源評価年	2019 年
次回の資源評価年	2024 年



青丸は 2018 年の状態を示す。黒丸は 4,500 回 (9 シナリオ × 500 回) のモデル設計やデータの不確実性を考慮した試行の分布を示す。縦軸は漁獲圧、横軸は資源量で現状／持続可能な値の比で示す。神戸プロットの上側と右側に、それぞれ横軸、縦軸について頻度分布図を示す。